

## 米国との共同研究に係わる計量管理規定（スラッジに対する新規測定手法）

令和 5 年 7 月 31 日  
日本原子力研究開発機構  
再処理廃止措置技術開発センター  
技術部 核物質管理課

### 1. 概要

プルトニウム転換技術開発施設（PCDF）ではスラッジの計量管理手法の改善として、非破壊測定（NDA）装置によるスラッジ中 Pu 量測定の技術開発を平成 28 年度から米国ロスアラモス国立研究所（LANL）と共同研究で実施している。現在、IAEA による検証が概ね終了し、IAEA からの評価結果待ちの段階となっている。

今後、スラッジに対する新規測定手法として非破壊測定（PSMC、HRGS）を導入するにあたり、核燃料サイクル工学研究所計量管理規定について相談したい。

### 2. 検討の内容

- ・申請手続きについて

- ・改正履歴の追記

- ・II-42 ページ及び II-43 ページ

スラッジの非破壊測定開始に伴う測定方法及び機器として、KMP-5 及び KMP-A の当該項目に「中性子マルチプリシティ計数法/ガンマ線計測」及び「中性子測定装置/高分解能ガンマ線計測装置」を追記

- ・II-45 ページ

スラッジの非破壊測定開始に伴う非破壊測定機器の校正方法について、KMP-5 及び KMP-A に測定方法・機器に「高分解能ガンマ線計測装置」、校正頻度に「測定の都度」、構成方法に「チェックソースによる確認」を追記

- ・II-30 ページから II-33 ページ及び II-38 ページから II-45 ページ  
記載の適正化

- ・附則の追記

以上